

第三者評価結果入力シート（乳児院）

種別	乳児院
----	-----

①第三者評価機関名

株式会社 中部評価センター

②評価調査者研修修了番号

SK18127
SK18133

③施設名等

名 称：	恩賜記念みどり園
施設長氏名：	内藤 好彦
定 員：	30名
所在地(都道府県)：	静岡県
所在地(市町村以下)：	富士市今泉2220番地
T E L：	0545-53-5665
U R L：	http://fuyoukai.org/facility/midorien.html
【施設の概要】	
開設年月日	1952/3/31
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 芙蓉会
職員数 常勤職員：	28名
職員数 非常勤職員：	8名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	2名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	21名
有資格職員の名称（ウ）	看護師
上記有資格職員の人数：	5名
有資格職員の名称（エ）	栄養士・調理員
上記有資格職員の人数：	5名
有資格職員の名称（オ）	
上記有資格職員の人数：	
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	6室
施設設備の概要（イ）設備等：	プレイルーム
施設設備の概要（ウ）：	和室
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

★理念
法人創立理念
「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」
みどり園養育理念
1. 赤ちゃんたちの権利を守ろう（権利擁護）
2. 良いことは何でもやってみよう（最善の利益の追求）
3. いっぱい愛し、伸び伸び育てよう
★基本方針
・ いかなる時も子ども最優先の対応を心がける
・ 信頼関係を基に、愛される喜び、愛する喜びをスキンシップを通じて感性を刺激し、心豊かな人間性を育む。
・ 基本的な生活習慣と自立の躰は、生活体験の中から生まれることを基本として養育する。
・ 園外保育等を通じ、社会性が助長されるよう養育する。
・ 個性豊かな人間形成を目指し、個々にあった指導養育を一貫して行う。

⑤施設の特徴的な取組

- ・ 措置変更の際、子どもたちの心・気持ちを繋ぐため、移行先である施設や里親との交流に特に時間をかけ、子どもたちの安全感・自己肯定感の育成に取り組んでいる。
- ・ 地域への社会貢献事業として、高齢者の買い物送迎支援を月4回実施している。
- ・ 今年度より、ホームカミングデイとして退所児童を園に招いての交流を実施。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2019/5/21
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2020/2/10
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成28年度

⑦総評

◇特に評価の高い点

◆秀逸な自己評価の取り組み

職員は、第三者評価項目に則した内容の自己評価を毎年実施し、自己評価委員会で結果を取りまとめて職員にフィードバックしている。自己評価を毎年実施することで、職員の養育・支援内容の振り返りに繋がり、自己反省することで養育・支援のステップアップが期待できる。職員に直結する養育・支援に関しては、自己評価を基に短期目標・中期目標・長期目標を区分した計画を作成し、実践に落とし込んでいる。

◆地域の福祉ニーズに応えて

地域貢献としての「ショートステイ」、子育て支援事業として「赤ちゃん110番」を継続させている。さらに、地域ニーズに応えるための新規事業として「高齢者の買い物送迎支援」や「分園型小規模グループケアの建設」にも着手し、計画を進めている。ともすれば「閉鎖的」になりがちな社会的養護関係施設にあって、地域に向けて広く門戸を開いている。

◆一時保護、緊急一時保護の受け入れ

社会的な現象ともなっている、係わる行政機関等の不手際によって「被虐待児の悲惨な事件」が繰り返し報道されている。そのような中で、児童相談所等の行政機関の要請に応え、一時保護や緊急一時保護を受け入れる体制を構築している。緊急性のある夜間の受け入れ等もあるが、その場合にも適切に受け入れることができるよう、対応する手順が確立している。

◇改善が求められる点

◆事業計画に数値目標の設定を

単年度の事業計画は、中・長期計画を踏まえて適切に策定されている。事業計画内の基本目標に記載があり、さらに実施目標として詳細に列記されている。計画の内容は、職員の獲得に向けた働きかけや養成教育の充実、さらには労働環境の整備まで現実的かつ実行可能な内容となっている。しかし、数値目標や具体的な成果を設定するまでに至っていない。期中での進捗の管理や、年度終了時に実施状況の評価を的確に行うためには、計画の段階で具体的な目標数値または成果を設定しておくことが望ましい。

◆ＢＣＰ（事業継続計画）の策定

「緊急時対応マニュアル」が整備されており、体制や役割は記載されているが、ＢＣＰ（事業継続計画）が策定されていない。大規模災害の発生後に、地域の早期復興を可能にするのが、福祉関係施設（保育所、障害者施設、高齢者施設、社会的養護関係施設等）の早期事業再開である。その大きな使命に応えるためにも、ＢＣＰ（事業継続計画）の早期の策定を期待したい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

この度の評価を真摯に受け止め、今後の施設運営に役立てたいと思います。

⑨第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（乳児院）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果	自己評価
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
【判断した理由・特記事項等】 園長が理事長に就任したのを機に、法人基本理念と養育理念をより理解してもらうための簡易資料を作成し、新任研修オリエンテーションの理事長講話で自ら説明している。資料は職員の立場になって考えられた内容で、「どうしたら理解することができるのか」、「少しでも理解して欲しい」という強い思いが込められている。保護者が施設に足を運ぶ事は入所時を含めほとんどないため積極的な周知はしていないが、施設入口に広報誌「芙蓉」を置き、誰でも持ち帰ることができるように配慮している。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果	自己評価
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
【判断した理由・特記事項等】 最新の社会的養護の動向については、主に全国乳児院協議会や関東ブロック乳児院協議会から情報を得ている。「新しい社会的養育ビジョン」では、児童福祉施設の高機能化及び多機能化、また小規模化かつ地域分散化と難題を課しており、年令別の子ども数に対して現行の職員配置でどのように取り組んでいくのか、経営環境の変化による経営課題は明確になっている。施設の経営状況の把握と定期的な分析を行い、組織体制や財務状況を踏まえた園としての方向性を確立している。		
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	a
【判断した理由・特記事項等】 「新しい社会的養育ビジョン」に即した体制を整えるにあたり、職員数の確保が一番切実な問題であり、経営課題の根幹が財務面にあることは役員間で共有されている。現状の最低基準では充実した支援は難しく、職員のモチベーション低下に繋がりが悪循環を生じかねないことを園長は懸念している。今後、措置施設であるがゆえの職員待遇や人員設定が大きく影響してくることを踏まえ、現状や今後の想定を会議等で職員に周知し、まず理解を求めることから始めている。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	自己評価
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	a
【判断した理由・特記事項等】 扶養会の法人理念は全体を包む大枠な設定で、みどり園の理念と基本方針は、あくまでも子ども本位の内容を詳細に設定している。中・長期計画とは理念や基本方針の実現に向けた具体的な取り組みを示すものであり、明らかになった課題や問題点を解決に導く計画を策定することが望ましい。今年度の中・長期計画は小規模化を目指した「分園の建設」と地域貢献である「高齢者買い物支援事業」を掲げているが、基本方針を踏まえた経営課題は人員確保と人員育成であり、繋がりに欠けている。		
② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	a
【判断した理由・特記事項等】 中・長期計画を踏まえた単年度計画として、適切に策定されている。事業計画内の基本目標に記載があり、さらに実施目標として詳細に列記されている。計画は、職員の獲得に向けた働きかけや養成教育の充実、さらには労働環境の整備まで現実的かつ実行可能な内容となっているが、数値目標や成果を設定するまでに至っていない。年度終了時に実施状況の評価を的確に行うためには、計画の段階で具体的な目標数値または成果を設定しておくことが望ましい。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	a
【判断した理由・特記事項等】 事業計画を職員に周知するための取り組みとして、職員に必要な内容を抜粋した冊子を年度始めに配付している。事業計画を職員がよく理解する事は計画達成のために不可欠であり、各自がいつでも確認できるように配慮した取り組みといえる。全職員が毎年自己評価を行い、自己評価委員会のメンバーが集計し、全体会で状況や達成度の確認をしている。情報に関する共通認識の違いも修正し、評価と合わせて振り返り、目標を見直している。		

②	7 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	b
【判断した理由・特記事項等】			
施設長は長年の保護者との関わりから、親としての意識や行動の変化、特に無関心さを実感しており、事業計画を周知したり保護者を開催する必要性を感じていない。周知としては最低限であるが、施設入口に広報誌を置いて施設の考え方や養育方針を開示し、子どもの様子が気になる保護者なら、誰でも持ち帰ることができるように配慮している。広報誌に事業計画や事業報告を掲載しているが、詳細ではあっても分かりやすい内容とは言い難い。保護者の興味を引く内容を、分かりやすく伝える工夫に期待したい。			

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1)	質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果	自己評価
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	b
【判断した理由・特記事項等】			
年1回、職員は自己評価を行っており、評価項目は第三者評価に則した詳細なものとなっている。第三者評価自己評価委員会を隔月で開催して全職員分の集計を行い、集計結果を分析して検討している。3年に1度の第三者評価を受審し、P(計画)D(実行)C(チェック)A(見直し)サイクルを継続的に実行している。施設の自己評価に「仕事内容に混乱している職員が見られるため一本化していく」とあり、改善活動にも繋げている。			
②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	b
【判断した理由・特記事項等】			
評価結果の分析や検討も第三者評価自己評価委員会で行い、分析結果に基づいた施設全体の課題は、毎年事業計画に基本目標及び各部門目標として明文化している。職員への周知は月例会やケース会議等で行い、課題を共有している。養育や支援に直結する課題は項目別に振り分け、長期及び短期目標を設定しているが、課題に対する具体的な取り組みは明確になっていない。設備の改善や人員配置、予算的な課題など、単年度では解決できない課題についても、段階的な計画の策定や計画的な取り組みが求められる。			

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1)	施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果	自己評価
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	b
【判断した理由・特記事項等】			
施設長の役割と責任は「管理規程」に示され、会議等で表明し周知を図っている。広報誌は法人全体で作成しているため表明機会が少ないことは理解できるが、掲載機会を積極的に求めていく姿勢は必要である。組織における施設長の役割や責任を表面化することは、施設内の信頼関係を築くために必要不可欠であり、有事の際また不在時の権限委任を含めた職務分掌の作成が期待される。			
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
【判断した理由・特記事項等】			
遵守すべき法令とは社会福祉関係の法令はもとより、法人理念・基本方針や諸規程、さらには社会的ルール・倫理と幅広い。施設長は正しい理解の下で法令を遵守し、自ら経営の研修等に参加し環境への配慮も心がけている。働き方改革に伴い、夜間に実施していた会議を昼間行うことで労働時間の短縮を図っている。職員への周知を目的とした、各法令に関する内部研修や勉強会の開催も計画されている。			
(2)	施設長のリーダーシップが発揮されている。		
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a	b
【判断した理由・特記事項等】			
職員の自己評価や人事考課において定期的に評価・分析を行い、養育・支援の質の現状における課題を把握している。個人的な課題は面接の際に直接話し、全体的な課題は部門別に主任が中心となり改善に向けて取り組んでいる。職員が主体的に業務に取り組む必要性を踏まえ、施設長はこの取り組みには参画していない。職員の資質向上が充実した養育に繋がるとして、研修等には可能な限り該当者を参加させている。			
②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a
【判断した理由・特記事項等】			
基準以上の職員を確保し養育にあたっているが、人材不足は否めない。人材獲得のために県社会福祉協議会内の人材センター主催の就職支援企画に参加したが、手応えは感じられなかった。今年度は2名の学生アルバイトが常勤保育士として入職し、業務の効率化が図られている。環境整備・修繕・物品購入は財務状況を踏まえて積極的に実施しており、現場における危険回避を最優先に、働きやすい環境作りに努めている。職員の認識や意識の違い等で、支援にずれ違いが起こらないように配慮している。			

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果	自己評価
① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。		a	a
【判断した理由・特記事項等】			
今年度は保育士を4名採用した。福祉人材確保の活動として今年から福祉フェアや保育お仕事フェアに参加したが手応えはなく、法人ホームページからの応募が主流になっている。現代の若者の特性が、人と関わり直接話を聞く人間関係重視型から、インターネット上の間接的な情報による条件重視型に様変わりしていることから、ホームページを整備し、採用条件に関する情報を充実させている。臨床心理士と里親支援専門相談員の配置はないが、セラピストが対象児童に対しプレイセラピー(遊戯療法)を実施している。			
② 15 総合的な人事管理が行われている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
「期待する職員像」は明確にしていなかったが、人として標準的な対応ができる職員を求めている。人事考課の基準を明確に示しており、評価結果のフィードバックも実施している。施設の理念や基本方針・養育支援の目的の実現を目指す人材像の定義として「期待する職員像」を明確にすることが求められる。まず、新任の時期に基本方針に則した指導や養育を徹底することで習得すべき基準が明確になり、中級以上の職員に対する評価水準にも繋がる。職員が自らの将来を描けるような、キャリアパスの仕組みを構築する事が期待される。			
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。		a	b
【判断した理由・特記事項等】			
各自3日の希望休を踏まえて勤務表を作成している。有給休暇や時間外労働は、事務がチェックしている。遅刻や早退にも、シフト変更等で柔軟に対応している。県外出張等の翌日は夜勤から始めるなど、職員のライフワークバランスにも配慮している。定期的な個別面談は年1回だが、日常の悩みは養育課長を中心に相談を受けている。専門家には相談しにくいことから、カウンセラーとは連携していない。福利厚生として、ソウエルクラブに加入している。			
(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
「施設全体の目標」や「期待する職員像」が明確になっていないが、これらを明確にしておくことは、職員個人の目標を管理していく上で必要である。理念や基本方針に則した目標は自ら決定し、項目・水準・期限が明確にされている事、知識や経験に応じた到達可能な内容である事が望ましい。何かをさせられている感覚を減らし、自ら率先して実践していく職員の姿が期待される。			
② 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
事業計画として「園内研修を充実させて採用職員の養成教育を充実させる」とあるように、特に新任の時期に習得すべき知識や技術を明確にし、基本姿勢や意識の統一化を図る必要がある。研修に参加するだけでなく、報告レポートや発表、研修成果に関する評価と分析を行い、研修内容を見直して次回研修計画に反映させていくことが求められる。研修内容を他の職員に伝達し、職員が相互に評価し助言し合う環境の構築が期待される。			
③ 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。		a	a
【判断した理由・特記事項等】			
「管理規程」に定められているように、施設長は子どもの処遇向上を図るために、職員に対し研修の機会を必要に応じて与えている。新任職員には個別にOJTを行うだけでなく、乳児院における基礎知識や標準的な技術、また118人工呼吸器取扱講習等の園内研修を充実させている。中堅以上の職員にも、階層別、職種別、テーマ別の研修機会が確保されており、スーパージョンを受けたり相談できる体制を取っている。施設長を含め職員全員の研修ファイルは、誰でもいつでも閲覧できるように会議室に置かれている。			
(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。			
① 20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
実習生受け入れについての意義及び基本姿勢を「管理規程」に明記しており、職員には会議等で説明している。昨年度は6校より各2名を受け入れた。受け入れ体制として、事前説明オリエンテーションを実施し、マニュアルを整備している。実習内容は学校側と連携してプログラムを用意している。実習プログラムは、実習生の目標や日程等に配慮されている。学生にとって指導者の存在・影響力は大きい。よって指導者の役割を理解し、効果的な指導についての習得を目的とした指導者研修を検討する必要がある。			

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果	自己評価
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。		a	a
【判断した理由・特記事項等】			
法人全体の情報を網羅したホームページは分かりやすく、法人理念はもとより施設の理念や基本方針、養育の基本、事業に関する項目を事細かに載せている。行動計画の策定として、今年度より3年間の目標と対策も公開している。行事等の新着情報は、適宜更新されている。法人広報誌「芙蓉会」は、同業者や家族への配布はしていないが、施設入口に置いて誰でも見る事ができるように配慮している。お楽しみ会や園外保育など、行事を通して子どもの様子が毎号載せられている。			
② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
内部監査により、事務・経理・取引等について定期的に確認しているが、ルールや職務分掌、責任・権限は明確になっていない。内部監査を実施することにより、職員が財務状況に関わる機会が増えることに期待したい。公認会計士による経営分析は毎年実施しており、助言を受けて適正に運用されている。			

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果	自己評価
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。		a	b
【判断した理由・特記事項等】			
地域との関わりについては、「管理規程」に、「施設の社会化」として定められている。「社会的資源としての施設の存在に鑑み、その機能を十分に発揮できるよう、地域との協調、地域への理解の増進のために職員一同、共有の責任があるものとする。」を基本的な考えとしている。事業の特性から、地域と直接交流することについては制限が多いが、可能な範囲で積極的に協力している。散歩時の挨拶はもとより、園の前をゴミ出し場として提供したり、地域の清掃や防災訓練には欠かさず職員を派遣している。			
② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
慎重な配慮のもとにボランティアを受け入れている。受け入れの際には必ずオリエンテーションを行い、施設見学や注意事項等を伝えて協力を得るようにしているが、マニュアルが整備されていない。ボランティアコーディネーター研修に参加しており、ボランティアの役割を学ぼうとする前向きな姿勢がある。施設主催の行事にボランティアを招く事は、施設をより深く知ってもらうための取り組みとして有効であるので、夏祭りやクリスマス会等に、積極的に呼びかけることを期待したい。			
(2) 関係機関との連携が確保されている。			
① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
児童相談所とは、定期的にケース会議を行って連携を図っている。行政機関や園で活用している医療機関、業者などの連絡先は「緊急連絡網」や「緊急時の対応」に簡易的に記載がしてある。リストは必要なときに職員が活用できるように、関係機関の機能や連絡方法を網羅したものである必要があり、見直しや検討は定期的に行うことが求められる。退所後の支援として、昨年度は80件程度の個別対応を行い、今年度は、アフターケアとして「ホームカミングデイ」と称して退所児童を招いての交流を実施した。			
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。			
① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。		a	a
【判断した理由・特記事項等】			
3年前まで隣組に加入していたが、町内会側の都合で現在は加入していない。地区の清掃や防災訓練には必ず参加し、ゴミ置き場の提供、防災倉庫の貸し出しで地域には協力している。地区高齢者への買い物支援として「買い物送迎プロジェクト」を立ち上げ、昨年度は計4回の実績がある。その結果、今年度当初は月2回開催する予定であるが、最終的には週1回の実施を目標としている。			
② 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
地域貢献・子育て支援事業として、ショートステイ(市の子育て短期支援事業)や赤ちゃん110番(電話による育児相談)を継続させている。早期家庭復帰を支援し、退園児のアフターフォローや里親制度の推進にも力を入れている。地域ニーズに応える新規事業として、分園型小規模グループケア等の施設建設に着手している。今後は、施設の養育・支援に関する専門的な情報を地域に還元していく取り組みに期待したい。防災対策として、施設の機能を活かした災害時の役割や行政・地域との連携・協力に関する事項を定めておく必要がある。			

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果	自己評価
① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
ケース会議や月例会において、全職員で「倫理綱領」の読み上げをしている。子どもの尊重や基本的人権への配慮について、具体的にどのような支援につなげていくかを、施設内で研修会等を実施して検討することが期待される。			
② 29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
子どものプライバシー保護に関する規程やマニュアル等が整備されている。保護者等に対するプライバシーの保護として、面会は面会室のみで実施することで配慮はしているが、今後はプライバシー保護に関する取り組みを保護者に周知することが望まれる。			
(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。			
① 30 保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。		a	a
【判断した理由・特記事項等】			
理念や基本方針は、ホームページやパンフレットに記載して保護者に情報を提供しており、施設の入所案内の冊子で詳細に説明している。施設見学者は少ないが、見学希望があれば丁寧に対応している。			
② 31 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。		a	a
【判断した理由・特記事項等】			
子どもの入所時には、支援の細かい内容に関して保護者から同意書を得ている。保護者に適切に説明できない場合は、児童相談所立ち合いのもとで分かりやすく説明している。			
③ 32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
措置変更や家庭等への移行においては、子どもの状況に応じて交流の機会を設けており、子どもに負担が香からないように段階を踏んでいる。施設を退所する時に、保護者等に対して退所記録の作成はされているが、退所後の相談方法や担当者について、文書として渡すものは作成されていない。今後、案内文書等の作成を期待したい。			
(3) 子どもの満足の向上に努めている。			
① 33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】			
子どもの要望に応じて、職員と一緒に外出しておやつを食べるなど、社会経験を増やす取り組みを行っている。職員は常に子どもの満足度の向上を意識して支援しているが、子どもの満足度を測ることはできない。満足度を把握して改善につなげるため、可能な範囲で保護者等の満足度調査を実施することが望まれる。			
(4) 保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。		a	a
【判断した理由・特記事項等】			
苦情解決の体制が整っており、苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員が設置されている。施設の玄関に意見箱を設置し、苦情の受付から解決に至る一連の流れに関する書面が掲示されている。苦情や相談内容に基づき、施設全体で養育・支援の質の向上に取り組んでいる。			

② 35 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。		b	b
【判断した理由・特記事項等】 保護者が相談しやすい環境として応接室等を利用しているが、保護者に対する相談方法等の説明については文書化されていない。今後は、保護者に対する相談方法や相談相手等を分かりやすく説明した文書の作成が期待される。			
③ 36 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。		b	b
【判断した理由・特記事項等】 保護者が、面会の時に相談しやすいように応接室等を使用して、個室で相談できるように配慮している。職員では適切な話が出来ない時には、児童相談所の児童福祉司が相談を聞いて、相談後に施設職員と相談内容を共有している。相談や意見についての検討に時間が必要な場合は、速やかに保護者に連絡している。相談や意見を受けた際に、記録や報告をする手順を定めたマニュアルを整備することが望ましい。			
(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。			
① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。		a	b
【判断した理由・特記事項等】 事故報告やインシデントの報告は「事故報告書」があり、再発防止への改善点が記載されている。リスクマネジメント委員会で分析と見直しを行い、会議等で職員全体に注意を促している。看護師による心肺蘇生等の対応方法を、研修を通して職員に周知している。			
② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】 「感染症対応マニュアル」が作成されており、定期的に感染症委員会を開催してマニュアルの見直しや勉強会、ガウテックや嘔吐物処理の講習が実施されている。マニュアルは見直しているが、文書化が遅れて職員への周知が適時性を欠くことがある。今後は、感染症委員会から全職員に、マニュアル等の変更点が迅速に伝わるよう留意されたい。			
③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にやっている。		b	b
【判断した理由・特記事項等】 「緊急時対応マニュアル」が整備されており、体制や役割は記載されているが、職員への周知が不十分などところがある。避難訓練が計画通りに実施され、防災委員会が毎月開催されている。全職員で安否コールを実施している。今後に向けて、BCP（事業継続計画）の研修会に参加し、その策定に向けて準備を始めている。BCP（事業継続計画）の早期の完成を期待したい。			

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果	自己評価
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。		a	a
【判断した理由・特記事項等】 新任職員は入職前に研修期間があり、標準的な実施方法については、施設独自の「新任職員用チェックリスト」による研修を実施している。子どもの養育・支援に関して、配慮することを文書化している。養育・支援が異なる場合は、その都度説明して共通認識を確認している。			
② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。		a	a
【判断した理由・特記事項等】 保育士や看護師、栄養士、厨房職員等の多職種職員が、ユニット会議に参加して話し合いを実施している。子どもの養育・支援についての最良の方法を探り、標準的な実施方法の見直しをしている。事業の性格上、保護者からの意見や提案は少ないが、職員からの意見や提案は標準的な実施方法の見直しに反映されている。			

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
【判断した理由・特記事項等】		
自立支援計画策定責任者が任じられており、アセスメントは多職種の職員が加わって実施している。プレイセラピー、ビデオカンファレンスを取り入れ、療育センターや医師の指示・アドバイスを受けている。自立支援計画には子どもの具体的なニーズ等を反映させ、養育・支援の詳細な内容が記載されている。困難ケースの対応については、その都度検討して積極的かつ適切な養育・支援を行っている。		
②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
自立支援計画を策定する時には、看護師や栄養士の意見を盛り込んでいる。策定した自立支援計画書はケース会議で読み上げ、全職員で周知している。6月と12月に見直し、新たな自立支援計画を策定している。子どもの発達の様子は、毎月の指導計画書でも見直している。		
(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。		
①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
【判断した理由・特記事項等】		
自立支援計画に基づいた子どもの養育・支援の実施状況は、施設の統一様式に記録されている。記載する職員によって記録の精度に差が出ないように「記録要領」が定められており、職員はそれに沿って記載している。それらの記録は、施設内の職員全体に情報共有できる仕組みが確立している。		
②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
【判断した理由・特記事項等】		
「個人情報保護規程」により、子どもや保護者等に関する個人情報の取り扱いが定められている。作成された子どもの記録は、適切な場所で管理されている。職員が入职した時に個人情報やプライバシーの保護についての研修が実施され、職員は誓約書を提出している。		

内容評価基準（23項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果	自己評価
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a	a
【判断した理由・特記事項等】			
子どもの権利擁護については、諸規程やマニュアルが整備されている。「倫理綱領」やチェックリストを活用（読み合わせ）し、職員意識の統一を図っている。定期的に開催されるユニット会議で、権利擁護について検討する機会を設けている。			
(2) 被措置児童等虐待の防止等			
①	A2 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a	a
【判断した理由・特記事項等】			
不適切な関わりについては、ユニット会議で具体的な事例を取り上げて検討している。その会議では、不適切な関わりが行われないことを確認し、職員全体に周知・徹底する機会としている。不適切な関わりが発生した時は、迅速に口頭で上司に伝える仕組みがあり、対応方法等は文書化されている。			

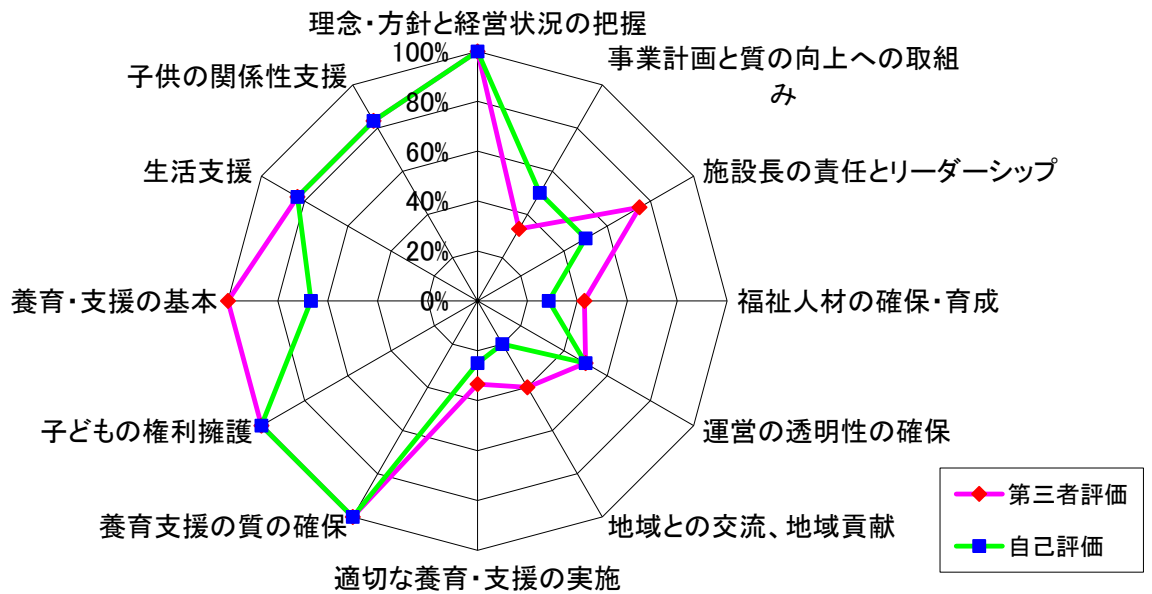
A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	自己評価
① A3 子どものころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。		a	a
【判断した理由・特記事項等】 個別の関りを大切にした養育・支援が実践されている。子どもに対して、保育士と看護師が担当職員として配置されており、子どもが担当職員と個別の関りを持てる時間を確保している。担当職員と一緒に出かけたり、誕生日会を開いたりして、愛着関係の形成を図っている。小さな子どもから抱っこやおんぶの要求があれば、積極的に応じている。子どもが泣いた時や喧嘩した時には、職員が即座に対応している。			
② A4 子どもの生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。		a	b
【判断した理由・特記事項等】 全体で遊べる玩具と個別で遊べる玩具がある。園庭の遊具（すべり台）には高さがあり、2名の職員での支援が必要となっている。自由に遊べない遊具があるが、現状は遊ぶことができていますので、今後は職員配置などを工夫することで改善されていくと思われる。園庭は芝生で家庭菜園や桜の樹などが植えられており、環境の良い場所である。食器や衣類も個別化されている。			
③ A5 子どもの発達を支援する環境を整えている。		a	a
【判断した理由・特記事項等】 毎月指導計画書を作成し、会議で全職員に共有を図っている。職員自らが養育・支援の振り返りができるシステム（チェック）があり、計画に基づいた反省をまとめて記録している。これまでに様々な環境の中で育った子どもの気持ちを受容し、汲み取って共感して支援にあたっており、時として子どもの気持ちを代弁することもある。			
(2) 食生活			
① A6 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。		a	a
【判断した理由・特記事項等】 幼い子どもの状態に合わせて、時間や量などを工夫して対応している。授乳後はパウンサーに座らせて、吐乳や中耳炎予防に配慮している。子どもの状態によっては定時に授乳ができないこともあるが、職員間の申し送りにより、子どもに合わせて授乳ができるようにしている。			
② A7 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。		a	a
【判断した理由・特記事項等】 子どもの発育状況や体調等を考慮し、離乳食や食事形態、調理方法を工夫している。「離乳食ノート」を活用して、授乳期から円滑に離乳食へ移行するように努め、「連絡帳」により全職員が子どもの食事に関する情報を共有している。			
③ A8 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。		a	a
【判断した理由・特記事項等】 手洗い場は子どもの身長に合わせた高さになっており、食事前の手洗い、食前食後の挨拶、食後の歯磨きが適切に支援されている。昼食時は栄養士や調理員も子どもと一緒に食事を摂っており、苦手な食事が少しでも食べられるよう、職員が言葉掛けをしながら支援している。食事の場所や子どもの椅子を変えるなど、環境を変えることで子どもが楽しく食事ができる環境の工夫もある。			
④ A9 栄養管理に十分な注意を払っている。		a	a
【判断した理由・特記事項等】 子どもの体調に合わせた食事を提供している。職員は、子ども一人ひとりの嗜好や適切な食事の量を把握しており、極力完食できる量を提供している。年1回嗜好調査を実施し、子どもの誕生日に合わせて好きな食事を提供している。園庭の花壇で野菜を育て、季節の野菜等を収穫して食材として活用されている。			

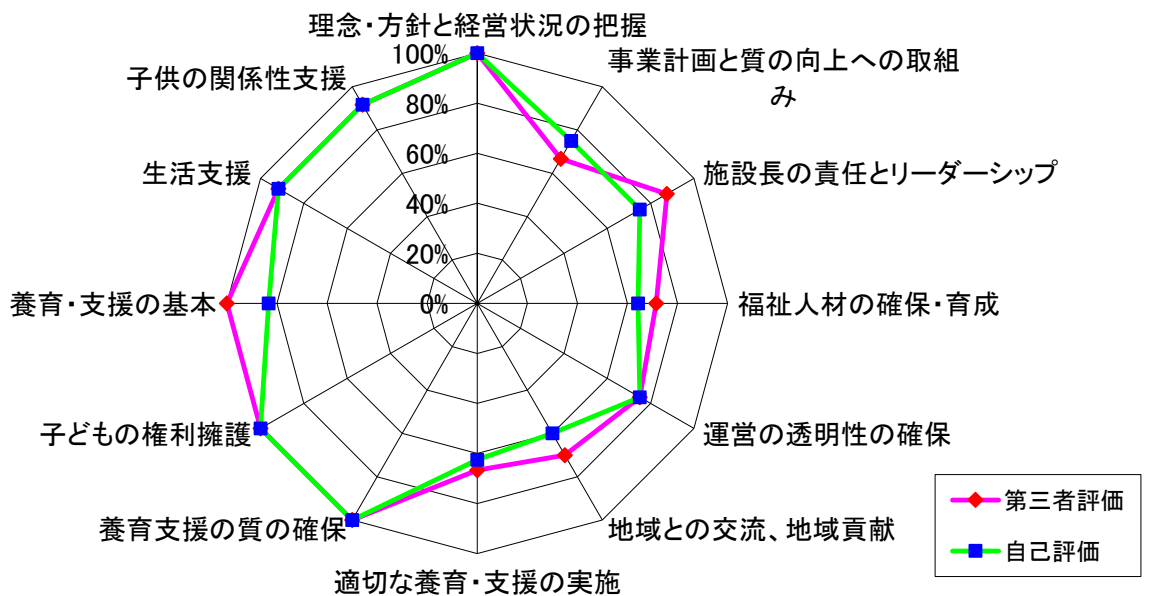
(3) 日常生活等の支援		
①	A10 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	b b
【判断した理由・特記事項等】		
衣類は、子どもごとにタンスが整備されて収納されている。子どもは、自ら気に入った衣類を選んで着用している。子どもの身体に合っていないサイズの衣類を着ていたり、ズボンの裾を引きずっていることがあったが、子どもの身体に合った衣類を提供できるように支援することが望ましい。		
②	A11 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
室内の湿度、温度は「養育日誌」に記載して快適な環境の保持に努めている。オルゴールのCDを流したり、職員が子守唄等を口ずさんで入眠しやすくしている。1歳未満の子どもにはネオガードを使用している。SIDS（乳幼児突然死症候群）対策として、15分毎に安否確認をして、「安否チェック表」に記録している。		
③	A12 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
入浴・沐浴は毎日しているが、夏季はその他にシャワー浴をしている。入浴時には、子どもの好きなタオルを個別で選んだり、お風呂用の玩具を準備して楽しく入浴・沐浴ができるようにしている。新任職員は入浴・沐浴の様子を見ながら学び、子どもの様子を把握できるようになってから入浴介助を行うことにしている。適切な介助ができるようになってから実際の支援をすることで、安心かつ快適な入浴・沐浴の支援が担保されている。		
④	A13 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
おむつを着用している子どものおむつ交換の時には、子どもがリラックスするように職員が声掛けやベビーマッサージを行っている。自立した排泄への興味を持てるように目標を設定し、目標が達成できたらシールを貼って、子どもの向上心や達成感が得られるように工夫している。		
⑤	A14 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
子どもの発達に応じて、それぞれに対して個別の玩具を用意している。室内遊びで、口唇期の子どもが玩具を口の中に入れてしまう危険性があることから、玩具の大きさにも配慮して提供している。園外活動として散歩で近所のスーパーマーケットなどへ行き、買い物等の社会経験ができる機会を設けている。		
(4) 健康		
①	A15 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
嘱託医が定期的に来所して健康診断を行っている。子どもの検温や健康状態の変化が分かるよう、記録や申し送りを徹底している。日常的には、医療機関と連携して、異常がある場合は医療機関に受診している。アレルギーが出やすい食材を使った食事を提供する時は、通院可能な日に提供するように配慮している。		
②	A16 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
看護師と子どもとの担当制を敷いており、看護師が毎日視診して健康状態を把握し、服薬管理も行っている。通院付添いも、原則として担当看護師が行っている。投薬が適切に実施されたことは、「服薬管理表」で確認ができ、水薬の場合は二重チェックをしている。虚弱児等の健康状態が常に把握できるよう、「養育日誌」に詳細に記録している。		
(5) 心理的ケア		
①	A17 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。	b b
【判断した理由・特記事項等】		
心理的な支援が必要な乳幼児に、心理療法を学んだ職員がプレイセラピーを月6～7回実施している。現在は心理職員が配置されていないが、来年度からは臨床心理士を採用する予定があり、念願の臨床心理士を配置する体制が整う。保護者等に対する心理的な支援については、児童相談所との連携を含め、今後の課題である。		

(6) 親子関係の再構築支援等		
①	A18 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
F S W（家庭支援専門員）が中心となり、施設と家族との信頼関係の構築に取り組んでいる。家族によっては、児童相談所の児童福祉司が面談し、そこから情報の提供があることもある。家族の面会時等に、F S W（家庭支援専門員）等の職員が、家族の状況の変化を掴んだ場合には、必ず施設から児童相談所へ連絡をして家族の状況等を伝えている。面会時には乳幼児の身長や体重、発達の様子を家族に伝えている。必要に応じて、保護者等への育児指導を実施している。		
②	A19 親子関係再構築等のため、家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
家庭支援に関する具体的な内容は、自立支援計画の中に家庭支援計画として記載している。会議等で入所時の情報共有を徹底している。面会、外出、外泊等については、子どもと家族双方の状態を考慮して対応している。被虐待児の場合は、児童相談所と協議をして虐待の再発防止に努め、親子関係の再構築に向けて支援している。		
(7) 養育・支援の継続性とアフターケア		
①	A20 退所後、子どもが安定した生活を送ることができるよう取り組んでいる。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
毎年11月3日に施設行事として「ホームカミングディ」を開催し、退所した子どもを施設に呼び寄せている。その他にも、退所した子どもにホームページや手紙などで開催の案内をして「お祭り」や「クリスマス会」に招待している。退所後の様子は、児童相談所や措置変更先の施設から様子を聞いたり、必要に応じて会いに行ったりしている。。		
(8) 継続的な里親支援の体制整備		
①	A21 継続的な里親支援の体制を整備している。	b b
【判断した理由・特記事項等】		
中・長期計画に、里親制度の推進に関する方針が明記されておらず、里親委託の実績がでていない。里親からの要請があればレスパイトを受け入れる用意はあるが、現時点では要請がない。児童相談所とは連携しているが、里親とは直接委託について話をすることがなく、里親支援専門員も配置されていない。		
(9) 一時保護委託への対応		
①	A22 一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
一時保護を受ける場合は、看護師が立ち合って人身のチェックや写真を撮影している。7日間は観察室で感染症の罹患の有無を確認するための観察を実施している。可能な場合には、医療機関から事前に病状に関する情報提供を受け、安全に健康管理ができるように配慮している。		
②	A23 緊急一時保護委託を受ける体制が整備され、積極的に受け入れを行っている。	a a
【判断した理由・特記事項等】		
緊急一時保護に関するマニュアルが整備されており、児童相談所からの緊急一時保護の要請があれば対応している。夜間の受け入れの場合は、入所時検診がタイムリーに受けられない事もあるが、可能な限り医療機関と連携している。観察室で7日間の観察期間を設けており、感染症などの予防に対処している。		

評価項目数に対してa(出来ている)項目数の割合



評価項目数に対してa+0.5b(ある程度出来ている)項目数の割合



	評価 項目数	第三者評価							自己評価						
		結果数 a	結果数 b	結果数 c	a%	b%	c%	a+0.5b /項目数	結果数 a	結果数 b	結果数 c	a%	b%	c%	a+0.5b /項目数
理念・方針と経営状況の把握	3	3	0	0	100%	0%	0%	100%	3	0	0	100%	0%	0%	100%
事業計画と質の向上への取組み	6	2	4	0	33%	67%	0%	67%	3	3	0	50%	50%	0%	75%
施設長の責任とリーダーシップ	4	3	1	0	75%	25%	0%	88%	2	2	0	50%	50%	0%	75%
福祉人材の確保・育成	7	3	4	0	43%	57%	0%	71%	2	5	0	29%	71%	0%	64%
運営の透明性の確保	2	1	1	0	50%	50%	0%	75%	1	1	0	50%	50%	0%	75%
地域との交流、地域貢献	5	2	3	0	40%	60%	0%	70%	1	4	0	20%	80%	0%	60%
適切な養育・支援の実施	12	4	8	0	33%	67%	0%	67%	3	9	0	25%	75%	0%	63%
養育支援の質の確保	6	6	0	0	100%	0%	0%	100%	6	0	0	100%	0%	0%	100%
子どもの権利擁護	2	2	0	0	100%	0%	0%	100%	2	0	0	100%	0%	0%	100%
養育・支援の基本	3	3	0	0	100%	0%	0%	100%	2	1	0	67%	33%	0%	83%
生活支援	12	10	2	0	83%	17%	0%	92%	10	2	0	83%	17%	0%	92%
子供の関係性支援	6	5	1	0	83%	17%	0%	92%	5	1	0	83%	17%	0%	92%
合 計	68	44	24	0	65%	35%	0%	82%	40	28	0	59%	41%	0%	79%